核兵器廃絶は安全保障・軍事分野の問題ではない
人類生存に関する倫理的・人権の課題
被爆者・参加者からブーイング、佐野大使の発言

オーストリア政府の主催で「核兵器の人道的影響ウィーン会議」が12月8日・9日に開かれました。
日本原水協が派遣した代表団に参加して活動してきた様子を報告します。

乙訓平和委員会　米重節男

今回の会議は、２０１５年ＮＰＴ会議を核兵器廃絶の具体的進展の場とするため、オーストリア政府が主催して開いたものです。昨年のノルウェー・オスロ会議、今年６月のメキシコ・ナヤリット会議に続く３回目のものです。今回の会議には、初めて米国と英国が参加しました。その影響か、中国は政府代表の参加はありませんでしたが、政府のシンクタンクが代表団を送って来ました。参加国は、前回のナヤリット会議を上回る１５８カ国と赤十字・赤新月社、反核に取り組むＮＧＯ、宗教団体など、多くの代表が集まりました。

日本原水協と日本被団協と共同代表団を派遣し、会議での発言、現地での原爆パネル写真展、ＮＰＴへ向けての署名集め、被爆者の証言会などの取り組みをしました。

政府会議の会場となったホーフブルグ宮殿

政府会議に先立って、５日夕方からはＩＰＢ（国際平和ビューロー）が主催する「マクブライド賞授与式」がウィーン工科大学でありました。世界中から約１００人位の出席でした。今回は、核実験で被害を受けたことで核保有国・米国を国際裁判所に訴えたマーシャル諸島に授与されました。同国のトニー・デブラム外務大臣が出席して、受賞挨拶をしました。

マーシャル諸島は、米国の核実験で住民が島を追われ、被爆者も多くいます。国の経済の大半は米国からの援助で成り立っていますが、その米国を訴えるのですから、勇気ある大変な行動です。

市民社会フォーラム会場で原爆展

１２月６日／７日は、オーストリー科学アカデミーを会場に市民社会フォーラムが開かれました。この会議は、ＩＣＡＮ（The International Campaign to Abolish Nuclear Weapons）が主催したもので、世界中から反核・平和活動をしている１６団体が参加しました。

全体会には６００人が参加しました。分科会、参加団体の活動紹介ブース、それぞれをアピールする場も設けられていました。全体会では、オーストリア外務大臣が挨拶、大統領がビデオで歓迎挨拶、マーシャル諸島から外務大臣が核実験被害を告発し、広島の被爆者であるカナダ在住のサーロー節子さん、被団協の田中熙巳事務局長が自身の被爆体験を話しました。

参加団体のブースが開かれ、日本被団協と原水協は共同して原爆パネル展示と署名活動で核兵器廃絶を訴えました。（下写真左）

多くの人が足を止めて、パネルに見入っていました。１７か国６０人が署名をしてくれ、写真を撮らせてくれ、パネル展を自分の国で開きたいがどこで手に入るか、被爆者に話をして欲しいのでイタリアに来てくれないかなど、非常に高い関心と反応が示されました。また、原水禁大会に参加したという人も複数ありました。

閉会の全体会では、オーストラリアの核被害者からの報告、新しい方法での核廃絶への取り組みについての討論などでした。２年間で核廃絶をめざして、翌日から開かれる政府会議での政府交渉に働きかけるとの見解が示されました。

この会場には、日本の報道各社も来ており、ＮＨＫ・朝日新聞・読売新聞広島支局・中国新聞・共同通信・赤旗・広島テレビなどが、われわれや見学者に取材して行きました。

日本大使の発言にブーイング

政府会議は日本政府代表団として参加した日本被団協の田中事務局長、藤森俊希事務局次長と日本原水協の高草木代表理事、土田弥生事務局次長が出席しました。会場のホーフブルグ宮殿には各国の代表が詰めかけていました。

この会議では、核爆発が人類の破滅的結果をもたらすという各国代表の発言に対して、日本の佐野利男軍縮大使が「悲観的に過ぎる。もっと積極的に考えるべき。放射能は防護できる。」などと発言して、参加者からのブーイングを浴びました。これにサーロー節子さんが、会場で彼に厳しく詰め寄り抗議したその場面を、写真に撮った日本のある記者は、記事には書けないだろうがと、見せてくれました。

この発言には、「原発の安全神話」と共通するものがあると感じます。放射線医療に関わる医師の中からも、今の技術からすれば、広島・長崎の被爆者の大半は助けられるなどと言う者がいると、同行した広島被団協の大越さんは語っていました。

学生に被爆者の証言・パネル展示

９日・１０日はウィーン大学で原爆写真展を開きました。１３６５年創立の古い大学です。夜は、主に日本学の学生に、被爆者が体験を語りました。私は、被爆２世の立場から想いを話しました（左の写真）。学生からは、聞いた話を他の人に伝え広げる義務があると感想を語っていました。

写真展は学生や教授など、大学に来ている人が通りがかりに見て行きました。じっと見て、呼びかけに応えて、２日間で８０人が署名をしてくれました。日本からの留学生、オーケストラのバイオリニストで来週から日本で演奏会をするという人、大江健三郎のヒロシマノートや井伏鱒二の黒い雨を読んだという人もありました。

原爆パネルは大学に寄付しました。